

高知くらしの護身術

98

悪質商法被害

高齢者を責めないで

(2008年7月15日掲載原稿)

高齢者を狙った悪質商法の被害が相次ぐ中で、昨今気にかかっていることがあります。それは、被害のニュースを話題にするときに「騙されるほうも騙されるほうだ。」「考えたら判ることなのに。」といった感想を散見することです。

多くの高齢者は、限られた年金収入の中で介護保険、後期高齢者医療の保険料負担など先々への金銭的、健康的不安を抱えながら、相談する家族も近くに居ない孤独な状況に置かれています。また、家族に迷惑をかけるはいけなからと不安な気持ちを隠しています。そんな状況を一番良く研究しているのが、高齢者を狙う悪質な業者なのです。

経済的な不安には「銀行に預けるよりも得ですよ」「お孫さんにお小遣いを貯めあげられる」「あなたのことを考えてお勧めしています」などの優しい勧誘。健康不安には、「これを飲めば病院要らず」「健康で長生きして、ご家族にも喜んでもらえる」「ひざや腰の痛みが嘘のように消える」など、常日頃の不安や痛みを耐えている気持ちをつかみます。そして、孤独な心に「田舎の母に似ています」「おばあちゃんに元気でいてもらいたいから」という日ごろ家族からかけてもらえない温かい言葉に、この人なら信用してみようか、という気持ちになるのではないのでしょうか。

悪質業者は高齢者を狙い次から次へと騙しのテクニックを日々磨いています。騙しのプロといえます。「騙されるほうが悪い」と、被害者を非難する風潮は、被害を人に相談しにくくし、結果として悪質業者をのさばらせることとなります。よく考えてみてください。マジックショーを見て、種が分からなかった人を非難できますか。騙すほうが悪いに決まっているのです。